

やわらぎ会通信

第19号

平成14年
10月20日号
編集発行人
やわらぎ会
歯科診療所
編集者
山下剛史

レセプトと治療の内容のお話

わが国の医療費は、年間三十兆円と膨大なものとなっております。そこで、国は社会保険による医師の報酬額を引き下げ、患者自己負担割合を本年十月より引き上げる等の対策をとっております。

こうした中、やわらぎ会歯科診療所では、平成十三年から治療内容と費用を患者様ご本人が直接確認していただくことを目的に、毎月レセプトをお送りしております。

すでに、何度かお読みいただいた方もおありかと思いますが、ご不明な点がございましたら、ご遠慮なく担当医にご確認ください。

ところで、費用には目に見えないものがあります。当医院では、適切な治療と患者様の痛みを減らすため、いち早く高度な装置を導入するほか、

型肝炎などの院内感染を防止するための滅菌装置、スタッフ教育を徹底しています。こうした費用は年々かさむ傾向にあります。

医療費として請求できないものではありますが、皆様のお喜びいただくことを最大の励みとして、これからも力を入れてまいりますので、どうぞご安心下さいませ。

そして、いそぎのお口のお手入れもよろしく願いたします。

今回は、自由診療を行う理由と治療内容について取り上げます。

かめるっち

入れ歯の話

世の東西を問わず、昔も今も入れ歯で悩む人は多いよう。かつてアメリカのワシントン大統領は入れ歯がかみ合わず、いつも機嫌が

悪かったとか。

現在の総入れ歯は、例えばぬれたガラスが別のガラスに密着するように作られています。ですから、義歯床の端に小さな空気の漏れ口ができると、空気の侵入により、たちまちずれ落ち、失敗することになります。実際よく適合した入れ歯でも人工歯の並べ方がまずく、噛むとはずれてしまうことが多く見受けられます。

また天然歯そっくりの人工歯が、そしゃくに最適だということが使われていますが、実際は天然歯に似せて作られた出っ張り、すなわち咬頭(こうとう)が入れ歯を転覆させてしまうことが多いようです。そうした理由から、そしゃく運動に適合した天然歯よりかなり平坦な咬頭であらかじめ並べてある奥歯の人工歯が開発されました。そういう人工歯を使うのもひとつの方法でしょう。(リビング総入れ歯Q&Aより)

耳寄りコーナー

「健康なはぐき」って?

最近、「鏡を見ながら歯磨きをしています。鏡を見ていたら虫歯を見つけた。歯が黒ずんできた。」など自分の歯について興味を持って鏡を見ている方が増えてきたように思います。健康なはぐきと歯肉炎を起しているはぐきです。

ご自分のはぐきと比べていかがでしょう。腫れや赤味を帯びていませんか。歯肉炎は歯のお手入れで良くなります。

ぺぱーみんと

やわらぎ会歯科診療所と(有)ジータブレートが共同開発した咬合治療器(ジータキュレーター)が、今年の七月に

アメリカ合衆国の特許を取得しました。また九月には、同じく共同開発した総入れ歯用の人工歯(ジータアート)が厚生労働省の承認を受け、いよいよ一般発売することになりました。身近に入れ歯のごとお困りの方がいらっしやいましたら、ご相談ください。この咬合治療器とジータアートを使って設計、作成した総入れ歯は患者さんからも「もともとあった自分の歯のように何でも食べられる。」と大好評です!

同封してありますレセプト(保険診療報酬の明細)のコピーは九月にお受けになられたものです。自由診療のみの方には、同封されていません。